レッスンSPA NO.28

テーマ：聖霊および現れとしての諸体

SPA28/KE7/04/DOC

私の姉妹・兄弟たち

スピリット、光、火の子供たちよ。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

これまで私たちは実存の諸世界における生の現象の存在としての現在のパーソナリティーについて述べてきました。前に述べたように全て存在するためには三つの体が必要です。体は思考あるいは黙想の結果です。そして黙想というときそれは神の黙想を意味します。この神の黙想はアウタルキーにおける絶対存在の結果、あるいは創造界における神の現れです。というのも、これまでのレッスンで述べたように黙想とは生それ自体の特質です。生の現象は黙想することはせず、思考を現わすだけです。

ですから、**実存の諸世界、生の現象の諸世界で存在するためには三つの体が必要です…思考の体、感情の体、そして肉体です。私たちが生きているこの世界ではあらゆるものはこれら三つの体が必要です。さて、この世界の体に関して言えば、肉体はその中に他の二つの体を必要とします。さもないと肉体が存在することはできません。**現れの体として何回も述べてきた三つの体についてはどうでしょうか？物質、サイキカル、ノエティカルとの関係におけるこれら三つの体はどうでしょうか？それはそれを通じて現れが表現されるという意味ですが。

肉体、それはノエティカル体、サイキカル体の結果ですが、現在のパーソナリティーに肉体がその現れのために使用するべく提供された瞬間から、肉体のためのサイコノエティカル体は現在のパーソナリティーの不定形の体と見なされます。

しかし、聖霊的およびロゴス的というとき、それは何を意味するでしょうか？**前に述べたようにマインドが存在するためにはその背後に生の海が必要であり、その生の海がキリストロゴスです。そしてまたキリストロゴスは絶対存在のロゴス的本質です。**

**諸宇宙が存在するためには活性化したマインドが必要です。しかし、形が形成されるためには絶対存在のダイナミックな現れである聖霊が必要です。人間の肉体が築かれるためにはその現れが必要です。つまり聖霊的現れです。そしてその現れの両手は様々なアークエンジェルのオーダーです。**

不定形の体はマインドのバイブレーションを使用して創られていますが、実際それらはロゴス的です。というのもそれらの形態は人間の現れに依存しているからです。そして人間はロゴス的現れです。ですから不定形の諸体の形を再び整える際には、それは私たち自身の現れに依存します。それは聖霊的現れには全く依存しません。ですから、**肉体は完全に聖霊的であり、不定形の諸体は現れとしての現在のパーソナリティーであり、それは純粋にロゴス的なものです。不定形のサイキカル体が肉体のなかで現れるやいなや、それはロゴス的であり同時に聖霊的であると見なされます。なぜなら、それは現在のパーソナリティーを肉体と結びつけるからです。**その現れ（＊サイキカル体のこと）はそれを通じて表現される手段（＊肉体のこと）とは完全に異なったものであり、異なったステートです。そして以前に述べたように生命が誕生します。私たちは生命を創るのではなく、生命を誕生させるのです。しかし、生命がそれを通じて現れる肉体は築かれ、創られます。

さて、より高いレベルの気づきを現わすためにワークをしようと努力するとき、その努力は肉体、サイキカル体、ノエティカル体に影響を与えるでしょうか？三つの体は現れるための手段ですが、それに影響をもたらすでしょうか？

Page2

答えはイエスです。なぜなら、他の三つの体はそれを通じて自らを現わすそれらの手段に対して多くのダメージを与えているからです。ですからそれら三つの体の健康状態は（それらの体を通じて自らを現すのですが）他の三つの体のステート次第です。言い換えれば、意識はそこに根付いています。なぜなら、実際それら三つの体が実存の諸世界における生の現れを示しているからです。

ですから、ここに無知のなかにいる人間がいます。その意識は限界、制限のなかにあり、四面ピラミッドの下方にある部屋にいます；そして四面ピラミッドの下方と言うとき、それは本当に存在しているのでしょうか、それはリアリティーなのでしょうか？私たちの上にはモニュメントとしての四面ピラミッドがあるのでしょうか？実際には存在しません。そのシンボルは、それらの手段について私たちがマスターすべき素質的可能性を象徴しているにすぎません。無知のなかに入る、無知に取り込まれるにあたり私たちに素質的可能性として与えられたもの、それを象徴しています。もしエレメンタルとしてそれらの手段が与えられなかったなら、意識は無知のなかに取り込まれることが“不可能”です。ですから、四面ピラミッドは入るという素質的可能性を意味し、また同時に意識が無知から解放されるということを意味します。

さて、それでは部屋に戻りましょう。以前のレッスンで述べたように、この部屋で私たちはまず現在のパーソナリティーに付き添っているそれらのアークエンジェル（彼らはほとんどの場合、実存の諸世界で付き添っています。なぜなら存在の諸世界では生はいかなるものをも必要としないからです）との同調を試みます。

実際、現在のパーソナリティーに付き添っているそれら五つのアークエンジェルの役割は実存の諸世界のためです。現在のパーソナリティーは実存の諸世界のなかでそれらの助けを必要としているのです。ですから、一つの目的をもってそれら五つのアークエンジェルとの同調を試みます。まず最初に、私たちは本来すべきやり方とは反対のやり方で向かい合っているということを認識できるように助けてもらいます。

どのようにしてそれを認識するのでしょうか？

自己分析を通じてです。私たちはイリュージョン、幻想のない状態で自らの現れを観察する必要があります。それ故に、自らの意識の大部分をその像、イメージに送るのです…私たちの正面にある純白の光のなかに見えるイメージに。エクササイズを与えましたが、簡単にできるエクササイズではありませんが、それを達成する必要があります。

それでは、私たちは部屋のなかにいる間に、言い換えれば墓にいる間にそれに成功するのでしょうか？そうではありません。私たちがこれによって達成するものもまた影、シャドーです。イリュージョンと言っても構いません。なぜなら、部屋のなかにいる間はあなたはこのリアリティーを意識的に生きていないからです。しかし、もしあなたがその“能力”に到達すれば十分すぎるほどです。なぜなら、前に説明したようにそれはイリュージョンだからです。しかしそれで十分です。なぜなら、現在のパーソナリティーが意識的意識のセルフ・エピグノシスの現れに到達するとき、真のワークが始まるからです。その時、あなたはそのリアリティーを生き始めます。あなたは指でそのリアリティーに触れるようになります。でも部屋の中では違います。

部屋の中でのワークとは何でしょうか？私たちは何に成功するのでしょうか？部屋のなかで成功するのは、ただ何らかのリアリティーをただ認識することです。リアリティーとしてアプローチ可能なものをその瞬間だけでも認識することです。四面ピラミッドのなかでのみそれらのリアリティーにアプローチすることができるでしょう；今実際にあなたが行うのは練習することです。それはあたかも役者が舞台に出るまえに行う練習のようなものです。舞台で上手に演じるためには沢山の練習が必要です。

それがあなたがすることです。それら全ての獣に直面するのに必要な手段をそのようにして得るのです。それらの獣は人間が無知のなかで創造したものであり、実際の舞台に出たときにそれらを恐れることはありません。なぜなら、部屋にいる間にそれらの存在に親しむからです。どうやって行うのでしょうか？それは部屋のなかでもっとエクササイズを始める時に知ることでしょう。

エクササイズ　SPA28/NO.1

静かに座り、心を騒がせるもの全てを解き放ちます…白い自分自身をイメージし、自分の境界を感じます…あなたは純白のなかにいて自分の境界を感じています。

あなたは今とても暗い所に立っています…何も見えませんが、同時に五芒星のなかに守られています…あなたは五芒星の白い光のなかにいます…もしあながた動くと、その純白の五芒星もあなたの動きについていきます…あなたはその中にいますが、しかしその純白の光にもかかわらずあなたにはまだ部屋のなかが見えません…部屋は真っ暗であなたはその中に立っていますが周囲は真っ暗で何も見えません。

それでは右に90度回転します…しかし、何も見えません…あなたは今あなたの現在のパーソナリティーに付き添っているミカエルの助けを求めます…彼に助けを求めて下さい…徐々に、少しずつ正面が見えるようになります…今、正面から別の光があなたに向かって来るのが見えます…それは赤い光であることがわかります…その赤い光は自分から数歩離れた所にある正面の壁から来るのがはっきりわかります…さて、その赤い光はあなた自身の白い光のなかに滲透し、あなたの身体の前面を頭から足の先まで触れています…助けてくれたことに対してミカエルに感謝を捧げます。

それでは再び90度右に回転しますが、真っ暗で何も見えません…ガブリエルに助けを求めると、その助けによって徐々に目の前が見えるようになり、あなた自身の白い光が見えます…そして今、正面から来る別の光があなた自身の白い光のなかに入ってくるのが見えます…それは純粋なホワイトブルーの光で、それが目の前の壁から来るのがわかります…前と同じように、そのホワイトブルーの光はあなたの身体前面を頭から足先まで触れます…その光はあなたの身体全体の前面に触れています…助けに対してガブリエルに感謝します。

次に180度左に回転し、最初に向いていたポイントに戻ります…初めに立っていた面に向いています…真っ暗で、正面には何も見えません…あなたの白い光も暗闇のなかでは見えません…それでは左に90度回転します…しかし、目の前は真っ暗で何も見えません…ラファエルに助けを求めると、その助けによって闇のなかにあなたの白い光が滲透していくのが見えます…だんだん目の前が見えるようになってきます…そして正面から別の光が来るのがわかります…それはウルトラバイオレットの光です…勿論、ウルトラバイオレットと言うとき、五感を使ってその色を認識することはできませんが、しかしその色なのです…その色、その輝きであることがわかります…それは正面の壁からやって来てあなたの白い光に滲透し、身体の前面、頭から足先まで触れています…ラファエルに対してその助けに感謝します。

それでは90度右に回転します…再び、真っ暗です…ウリエルの助けを求めます…他の三つのアークエンジェルによる助けをコーディネートする彼の助けによって、あなた自身の白い光が暗闇のなかに滲透していき、徐々に目の前に見える範囲が広がってきます…そして別の非常に明るい光があなたに向かって来るのがわかります…その純白の光はあまりにも明るいのであなた自身の光とは比べものになりません…その非常にあかるい純白の光は目の前の壁から来るのがわかります…その光はあなた自身の白い光のなかに滲透し、身体前面を頭から足先まで触れています。

さて、あなたは今部屋の真ん中に立っており、その部屋には四つの光があります…一つの光は純白…もう一つの光は非常に透明な明るい赤…もう一つは純粋で非常に明るいホワイトブルー…そして四つ目はウルトラ・バイオレットの色です…部屋にはそれら四つの光があり、あなたはその中にいます。

その部屋の暗闇を照らしてくれたそれらのアークエンジェル達に感謝を捧げます…あなたの現在のパーソナリティー全体の健康を願います。

私たちは常に主、絶対、主の聖性によって抱かれています。終わります。

このエクササイズは毎日行うことができます。

エクササイズ　SPS/28 NO.2 （視覚化のための短いエクササイズ）

静かに座り、心を騒がせているもの全てを解き放ちます…今あなたの心を邪魔しているものは全く何もありません…あなたは真っ白であり、自分の境界を感じています…知覚の状態に入ります…自分自身をオープンでフリーな状態にします…それではあなた方各人は前にいる私が見えます…私はあなた方一人一人の前に立っていて、私はあなた方一人一人に非常に綺麗な花を渡しています…あなたがその花を受け取り、自分の胸のそばに持って行くと、その花があなたの胸のなかに入っていくのがわかります…その花をさらに持っていると、それは胸のなかに入り、あなたのハートに触れます…あなた方一人一人にアガピがありますように。私たちはいつも主、絶対、主の聖性に抱かれています。終わります。

さて、それはどんな花だったでしょうか？それはとても美しいホワイトピンクのバラでした。

質問

質問：エソテリック関係の多くの本のなかでは、意識を上昇させることなく、テクニックを通じたアークエンジェルとの同調について述べていますが、それらは危険ではないのでしょうか？

Ｋ：**いいですか、アークエンジェルと同調するのは簡単にできることではありません。しかし人間の創造物であるエレメンタルに同調するのは簡単です。そしてテクニックを通じて人間が同調するのはそれらのエレメンタルです。**あなたがどの本、どのテクニックについて話しているのか知りませんが、しかし重要なことは気づきの上昇に向けての真のワーク、それだけです。テクニックによって気づきのレベルを上昇させることは不可能です。**確かに、例えば様々な現象を起こすことのできるイリュージョンのレベルに到達することはできます。しかし、それらの現象を行っているのは現在のパーソナリティーではなく、現在のパーソナリティーによって生かされているエレメンタルです。そこには危険があります。エレメンタルに食べ物を与えるのは望ましいことではありません、**特に無知にいる人間が創造したエレメンタルの場合には。“能力”として表現するものは何であれ生それ自体から与えられる真の能力であるべきです。言い換えれば、全て私たちが行うことは他の手段を使った結果であってはいけないということです。

質問：不定形の諸体の形を整え直すのは私たち自身の現れによるのであり、聖霊的現れによるのではないということですね。しかし、ピラミッドのなかで行うエクササイズの一部を私たちは部屋のなかで行っていますが、それにはアークエンジェルとの同調があります。アークエンジェルは聖霊的現れであり、より気づきが高まるように私たちを助けてくれています。

Ｋ：それらのアークエンジェルは現在のパーソナリティー、人間に付き添っています。彼らは実際彼らが代表するオーダーには属しておらず、聖霊の手としての仕事を行っていません。彼らはロゴス的現れである現在のパーソナリティーに付き添っており、諸体の再形成を助けることはしません。彼らは現在のパーソナリティーがリアリティーを認識することのみを助けるのです。気づきの上昇、サイコノエティカルな成長を助けるために働きます。彼らが再形成をするわけではなく、それは私たち自身で行う必要があります。

Page 5

質問：しかし、彼らは私たちを助けているのですね。

Ｋ：勿論、彼らは私たちを助け、後に私たちがオーダーに同調するようになるのは彼らを通じてです。しかし実際彼らは聖霊の手ではなく、彼らの役目とは私たちに付きそうことです。身体を築き、維持するために他の無数のアークエンジェルたちが最小のなかで働いていますが、彼らはそれと同じようにして働いているのではありません。彼らの役目とは現れとしての現在のパーソナリティーの現れを助けることであり、それ以外の何ものでもありません。

質問：それでは睡眠中、およびヒーリングの最中にそれらのアークエンジェルたちは実際に肉体を支えているのですか？

Ｋ：そのために睡眠が必要なのです。肉体を支え、私たちが目覚めている間、意識が肉体にある間に現在のパーソナリティーが与えたダメージを修復するためです。

**睡眠中において意識は私たちが永遠のアトムと呼んだ他の三つの諸体に移送されます。**

**それらは現在のパーソナリティーの不定形の諸体であり、それら三つの諸体は肉体から切り離されます。**

私たちが肉体と言うとき、それはサイキカル体、ノエティカル体を伴う体です。実在するためには三つの体が必要です…思考体、感情体、そして肉体です。

自然に関しては、それはどのように築かれるのでしょうか？惑星は聖なる神の黙想の結果として築かれます。ですから黙想の体、感情の体があるのでしょうか？勿論です。さもないと、物質的存在というものが存在しません。ですから存在するあらゆるものには三つの体があります。しかし現れとしての私たちは三つの体ではありません；現れとしての私たちは生それ自体の結果であり、生は存在するためにそれらの手段を必要としません。しかし生が制限のなかに入るためにマインドが使われます。マインドのそれらのバイブレーションは聖霊的現れではなく、その形は神の黙想によって定義されます。それは純粋にロゴス的結果であり、マインドの様々なバイブレーションが形を帯び、意識が制限のなかに入れるようにします。それらの制限はそれらの諸体が帯びる形によって決まります。それは聖霊的現れの結果ではありません。そしてそれらの体が再形成されるためには、天上的人間(Heavenly Man)によって人間のイデアに与えられた天上的人間の形を帯びるためには、現れとしてのロゴス的結果である必要があります。私たちはそれらの形を再形成して、人間の元型、イデアにマッチした形にするのです。再形成は完全にその現れ、私たちのロゴス的本質に依存します。ダブル・エーテリックを伴う肉体および他の諸体は完全に聖霊的です。それらを築き、支えるのは絶対存在のダイナミックな現れです。

質問：死の現象によってサイコノエティカル体に何が起きるのでしょうか？現れは不定形の諸体です。肉体のサイコノエティカル体に生じること、そのパーソナリティーは肉体のサイコノエティカル体を必要とするでしょうか？言い換えれば、サイコノエティカルな諸世界において引き続き形を帯びる必要があるでしょうか？

Ｋ：肉体のサイコノエティカル体はイデアとして残ります。なぜなら、肉体を提供するという実際の仕事はもはや必要なくなります。

肉体が築かれた時にのみサイコノエティカル体は築かれたのです。しかし、それはイリュージョン、アイディアとしてのみ留まります。なぜなら、サイコノエティカルな諸世界に入る現在のパーソナリティーに残っているのはイリュージョンだからです。そして、その現在のパーソナリティーはサイコノエティカル体の形を変えることができます。それは、そのパーソナリティーが肉体のなかにいた時に持っていたアイディアの投射と言うことができます。そうです、

そのパーソナリティーは体を別の形に変えることができます。変えるために必要なことは、それらの世界においてそのサイズ、形など何であれただ単純に思うことだけです。

それゆえにそのパーソナリティーは自分自身をもっと若く、あるいはもっと年上の姿として見ることができます。そのパーソナリティーの好みに応じて。

Page 6

質問：それではサイコノエティカルな諸世界における体はもっと自由なのですね。物質界におけるよりもずっと速く容貌、形などを変えることができるのですね。

Ｋ：勿論です。自分が望む形を帯びることができます。しかし通常は、パーソナリティーは肉体のなかにいた時のアイディアに従っています。自分が生前に現わしていた自分自身の姿というアイディアに従っています。

質問：自分がサイコノエティカル体にいる時、アークエンジェルは何をしているのですか？

Ｋ：そこではアークエンジェルの助けは全く必要としません。

質問：それでは現在のパーソナリティーはサイコノエティカル層においていかにしてその気づきを上昇させるのですか？

Ｋ：その鍵はそれらのバイブレーションの内側から来ます。もしあなたが鍵を探そうとせず、鍵穴にそれを入れたままにしておけば、そこから前に進むのは非常に困難です。それらのバイブレーションに基盤を置いてスタートしなければなりません。勿論、あなた方はより高い成長に向けて気づきのレベルをどんどん上昇させる必要があります。なぜなら、サイコノエティカル界の21番目のレベルに到達するまでは、いわゆる深い無知の世界だからです。

　　七つの層があり、それらの各層には七つの亜層があります。つまり49のサイコノエティカルなレベルがあり、21のレベルは完全なる無知の世界です。言い換えれば、それらは地獄の諸世界と見なされます。

なぜなら現在のパーソナリティーは多くのイリュージョンの下にあるからです。しかし、それらの諸世界においては誰かをガイドするのはずっと簡単です。人が他の七つのレベルに入ると、ガイドするのは困難です。なぜなら現在のパーソナリティーは自分は何でも知っておると考えているからです。そうです、そこでもイリュージョンの下にいます。いいですか、ガイドするのは非常に困難です。なぜなら知識の結果として多くのエゴ、強いエゴがあるからです。

質問：不定形の体はどうなるのでしょうか？肉体とつながっているサイコノエティカル体は死後その再形成が可能であると言いましたが、それは必ずしも不定形の体の再形成には影響を与えないのですか？

Ｋ：全く影響を与えません。そのワークは続きますが、この世界からスタートする必要があります。

質問：70歳で死んだあと25歳の自分自身を描くのは難しいことですが…でも見える人にはその人の気づきのレベル、あるいはそのパーソナリティーの不定形の体の成長段階を知ることができるのでしょうか？

Ｋ：超意識を現わしていてそれらのレベルの現れを訪れることが出来る人なら二つの体を見ることができます。

その現れの本当の体がどの程度不定形であるか、そしてそのパーソナリティーが自分自身をどれほど“想像”で見ているか、を知ることができます。

でも最初に見えるのは不定形の体ではありません。さもないと、あらゆる人と同じに見えるかもしれません。最初はその人が創造した自分自身の姿が見え、その姿は勿論肉体を持って生きていた時の姿に似ています。

若く見えるか年とって見えるかに関わらず、生きていた時とほとんど同じに見えます。

しかし特徴は同じです。しかし、その人を助けようとする時にはその現れの本当のレベルを見ることになります。

また諸体のない人間が動き回っているのを見ることでしょう。

質問：新しく転生する時にはサイコノエティカル体はどうなるのですか？

Ｋ：三つの体および三つの体を通じての現れはマインドのバイブレーションを通じて形成されます。私たちは内側の他の二つの体と一緒にこの肉体を自分自身を表現するための手段として使っています。その人の現れは三つの不定形の体によって決まります。

質問：…現れと形という二つの間の違いは何ですか？

Ｋ：違いとは、肉体と他の二つの体は聖霊的です。なぜなら、それらの体は聖霊的現れ、アークエンジェルによって築かれるからです。それは築かれるものです。その現れの他の三つの体は誰かによって築かれるというものではありません。実際それを創るのはロゴス的現れであり、それらは神の黙想の結果です。それらは現れの諸世界に入るときに人間、人間のイデアに与えられる素質的可能性のサイクルのなかにあるものです。そして私たちにはマインドを形成する能力があり、それは私たちの意識が制限のなかで表現されるためです。不定形としてのその形成はロゴス的な結果です。

質問：私たちが創造するエレメンタル、それらはサイコノエティカル界にあるのですか？見る能力のある人ならそれらを見ることができるのですか？

Ｋ：それらはこの世界のエーテル的状態を帯びています。私たちが創造するエレメンタルは私たちに非常に近いものです。

しかし全てのエレメンタルには三つの体があります…ノエティカル体、サイキカル体、そして物質のエーテル体です。もしそうでなければ、それらを創造した現在のパーソナリティーに影響を与えることはないはずです。そこにはつながりがあるのです。

質問：それではサイコノエティカル界にいる時にはエレメンタルを見ることができるのですか？

Ｋ：いいえ、エレメンタルを見ることはできません。何でもその人が見たいものを見るのです。何であれ自分が見たいものを創造するのです…自分のいる環境を創造します。私たちはそれについて多くのレッスンのなかで分析してきました。長年提供してきたレッスンを勉強しなさい。非常に多くのサイコノエティカル界があります。諸宇宙、創造界、時間の中における気づきとして何回も述べてきました。

サイコノエティカル界において私たち各人は自分自身の環境を創造します。物質的創造がありますが、それにも関わらず私たち各人は自分自身の環境を創造するのです。このことを認識する必要があります。私たちは自分自身が創造しない天国あるいは地獄に入るのではありません。自分が創造するものでなければ私たちはそれを楽しみません。それではどこに地獄があるのでしょうか？どこにもありません。なぜなら、私の天国は別の人にとっては地獄かもしれません。そういうことなのです。

サイコノエティカル界では全ての人はその人にとっての天国にいます。その人が見たいもの、やりたいこと等その人にとって楽しい環境にいます。

質問：実存の諸世界、生の現象の世界では全てのものには三つの体があるといいました。死の後、肉体はどうなるのですか？

Ｋ：肉体はマインドのバイブレーションへと戻ります。物質のバイブレーションはより薄いバイブレーションの結果です。それらはマインドのより薄いバイブレーションへと入ります。肉体が分解すると言うとき、何が起きるのでしょうか？科学で言うところのエネルギーに戻るのでしょうか？エネルギーとは何でしょうか？そうです、全てはエネルギーであり、勿論全てのものは内側にエネルギーを有しています。物質的なものはマインドのより薄いバイブレーションのなかに入ります。

質問：より薄いバイブレーションと言うとき、肉体それ自体は四つのエレメントから出来ています。ですから、物質的バイブレーションのなかに留まるのでしょうか？

Ｋ：違います。物質的バイブレーションに留まることはしません。

それはエーテルのバイブレーションのなかに入ります。

それは体のダブル・エーテリックによって導かれます。なぜなら、この肉体はイデアあるいは黙想、思考の結果であり、戻るのです。出てきたところへと再び戻ります。マインドのバイブレーションです。活性化する生の海ではありません。マインドのバイブレーション、マインドのより薄いバイブレーションへと入るのです。エーテル、ダブル・エーテリックは物質、マインドのより薄いバイブレーションです。マインドのより薄いバイブレーションであるサイキカル体があり、サイキカル体のダブル・エーテリックもまたマインドのより薄いバイブレーションです。さらにノエティカルのより薄いバイブレーションがあり…というように続きます。

EREVNA SPA28/K97/04